

2010 年 12 月 18 日

法勝寺八角九重塔跡の調査

(財)京都市埋蔵文化財研究所 柏田有香

1 法勝寺の沿革

- ・位置と環境
- ・創建から廃絶まで

2 これまでの調査

- ・戦前の調査と「塔の壇」
- ・戦後の調査、金堂と翼廊跡の発見

3 八角九重塔跡の調査成果

- ・遺構の概要
- ・出土遺物の概要

4 八角九重塔の復元

- ・見つかった遺構・遺物から推測される塔の姿
- ・他の塔との比較
 - ・日本の現存塔との比較
 - ・東アジアの塔との比較

5 おわりに

- ・発掘調査の意義
- ・今後の課題 保存・顕彰に向けて

*図 5～8 は、2011 年 3 月 31 日までは転載不可とします。

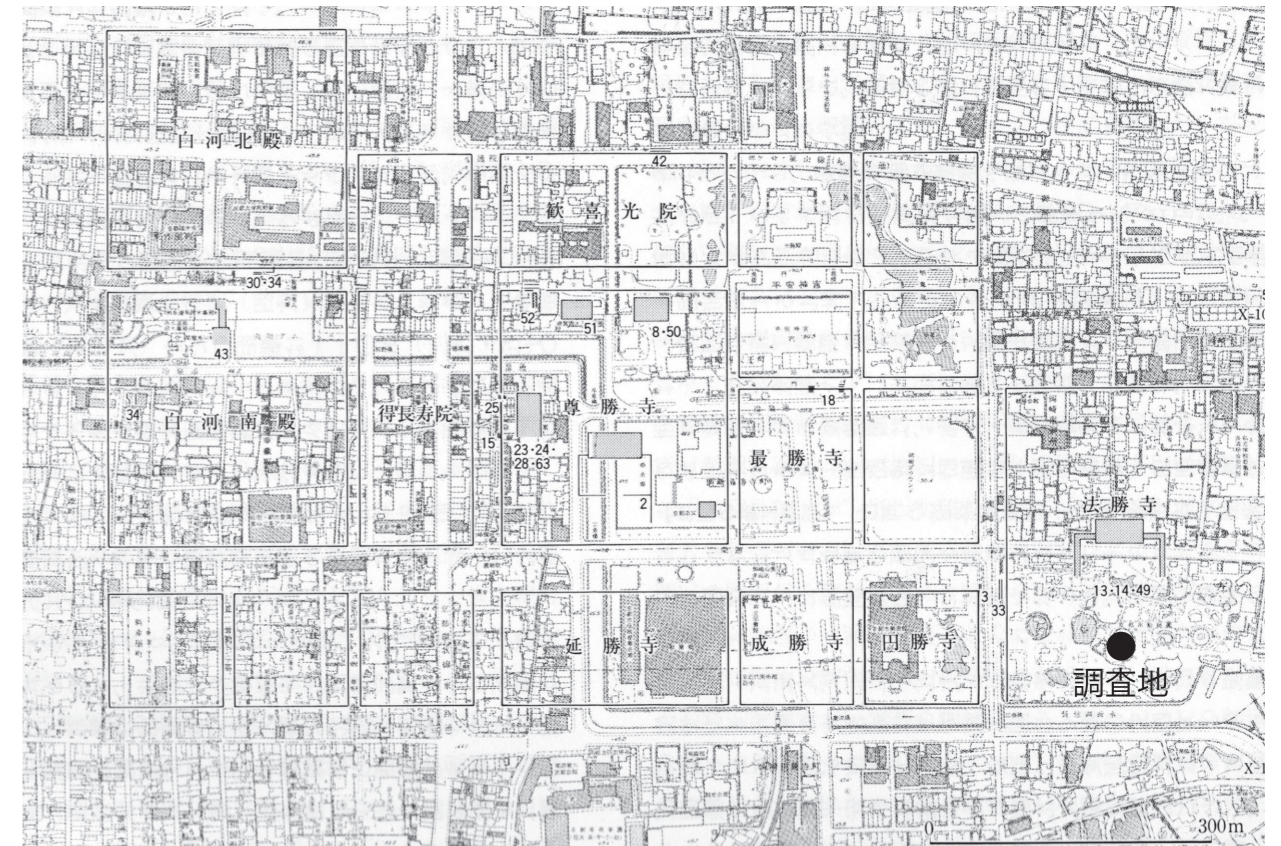


図 1 白河地域地割復元図 (『平安京提要』角川書店 1994 年より)

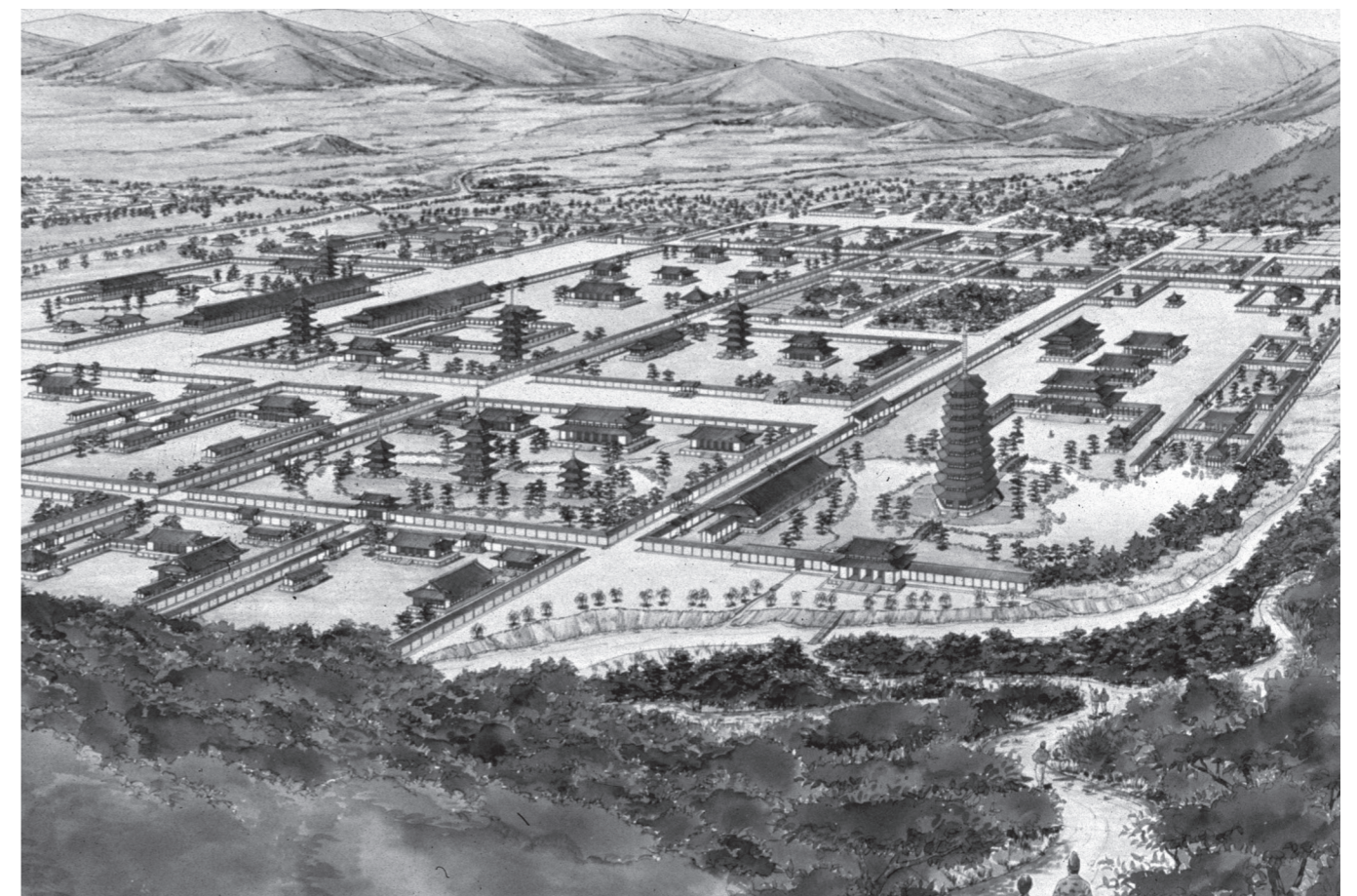


図 2 南東から見た六勝寺の伽藍俯瞰図 (作画：梶川敏夫)

表1 法勝寺略年表

年号	西暦	月日	事項	出典
承保2	1075	6月13日	法勝寺の造営を開始する	法勝寺金堂造営記
承保2	1075	7月11日	白河御堂の木作りを始める	法勝寺金堂造営記
承保2	1075	7月19日	基壇を築き始める	法勝寺金堂造営記
承保2	1076	7月23日	礎石を据える	中宮一品記
承保2	1075	8月13日	白河御願寺の棟上げを行う	法勝寺金堂造営記
承保3	1076	6月13日	阿弥陀堂の木作りを始める	法勝寺金堂造営記
承保4	1077	8月27日	仏像を金堂・講堂に納める	法勝寺金堂造営記
承保4	1077	10月23日	白河御願寺の供養日を定める	水左記
承暦元	1077	12月18日	法勝寺落慶供養 七間四面瓦葺金堂 七間四面瓦葺講堂 十一間四面瓦葺阿弥陀堂 五間四面瓦葺五大堂 一間四面二階瓦葺南大門 其のほか 大門・回廊・鐘楼・経蔵・僧坊等	扶桑略記
永保元	1081	8月25日	塔の壇を築き始める	水左記
永保元	1081	8月26日	塔・薬師堂・法華堂の地鎮を行う	水左記
永保元	1081	9月27日	塔の礎石を据える	水左記
永保元	1081	10月27日	塔の心柱を立てる	水左記
永保3	1083	10月1日	九重塔・薬師堂・八角堂の落慶供養	法勝寺御塔供養咒願文
応徳2	1085	7月10日	常行堂の上棟を行う	為房卿記
応徳2	1085	8月19日	常行堂の地鎮を行う	為房卿記
応徳2	1085	8月29日	常行堂の落慶供養。	帝王編年記
寛治5	1091	8月7日	地震により九重塔・愛染堂・常行堂などが被害を受ける	扶桑略記
嘉保2	1095	11月17日	九重塔の修理で心柱が上げられる	中右記
承德2	1098	10月23日	九重塔の修理完成	中右記
天仁2	1109	2月27日	北門の近くに瓦葺一間四面の北斗曼荼羅堂を新たに造る	江都督納言願文集
永久元	1113	6月17日	塔に雷が落ちる	殿曆
保安3	1122	4月23日	五寸塔30万基を供養する	百鍊抄
保安3	1122	12月15日	御堂を一棟造り、4月に供養した小塔を納める	百鍊抄
保延6	1140	11月14日	九重塔の心柱の根元が2尺ほど湿気により腐朽する	中右記
嘉応元	1169	11月12日	九重塔の第三層に落雷	百鍊抄
承安4	1174	7月20日	九重塔に落雷 仏像・柱が破損する	百鍊抄
安元2	1176	3月1日	九重塔の第九層に落雷。下にいた二人が死亡する	百鍊抄
元暦2	1185	7月9日	大地震により九重塔・阿弥陀堂など破損する	山塊記
文治3	1187	7月3日	九重塔の修理が完成する	玉葉
建仁3	1203	5月27日	8万4千基の塔を供養する	百鍊抄
承元元2	1208	5月15日	九重塔落雷により焼失する	百鍊抄
承元元2	1208	10月14日	九重塔の再建に着手する	百鍊抄
承元元4	1210	7月16日	九重塔の心柱を立てる	百鍊抄
建暦元	1211	3月20日	九重塔の第六重の柱を立てる	百鍊抄
建保元	1213	4月26日	九重塔が再建される	百鍊抄
安貞2	1228	9月29日	宝蔵に盗賊が入り焼失する	百鍊抄
安貞2	1228	10月7日	暴風で九重塔の九輪破損する	百鍊抄
天福元	1233	10月4日	円堂に盗賊が入り火をつける	百鍊抄
寛治元	1247	8月28日	阿弥陀堂が焼亡する	百鍊抄
建長3	1251	8月3日	阿弥陀堂の棟上げを行う	百鍊抄
建長5	1253	12月22日	阿弥陀堂が再建される	百鍊抄
建長7	1255	8月28日	九重塔に落雷	百鍊抄
文永5	1268	6月5日	九重塔に落雷	吉統記
弘安9	1286	4月26日	九重塔に落雷	勘仲記
暦応5	1342	3月20日	阿弥陀堂・金堂・講堂・九重塔・南大門など焼ける	続史愚抄
応仁2	1468	8月4日	兵火によって法勝寺・聖護院共に焼ける	碧山日録
享禄4	1531	1月11日	法勝寺放火により焼失	二水記



図3 「塔の壇」 (『京都府史跡勝地調査会報告 第6刷』大正14年より)



図4 塔地業イメージ図

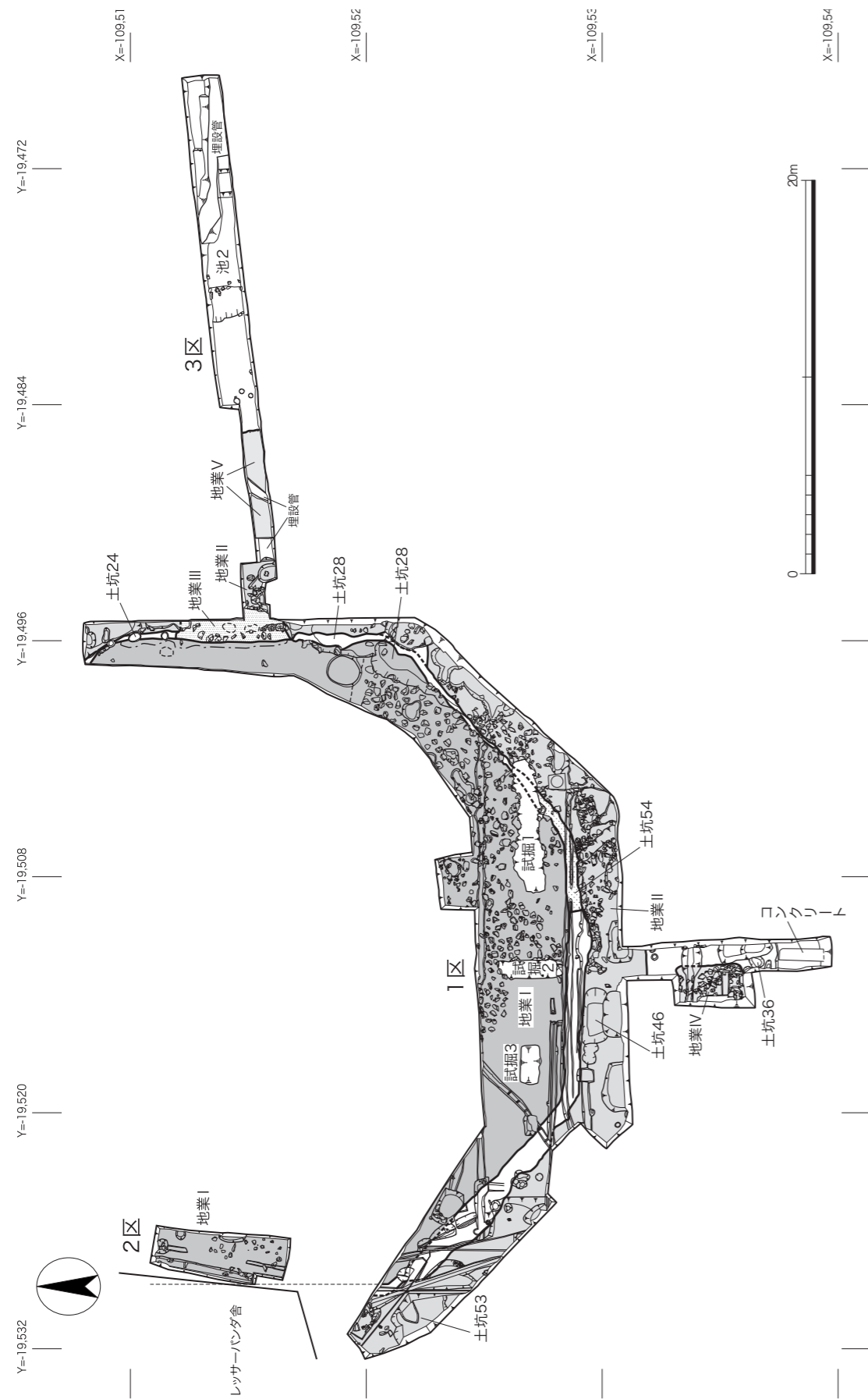


図5 全体平面図 (1 : 300)

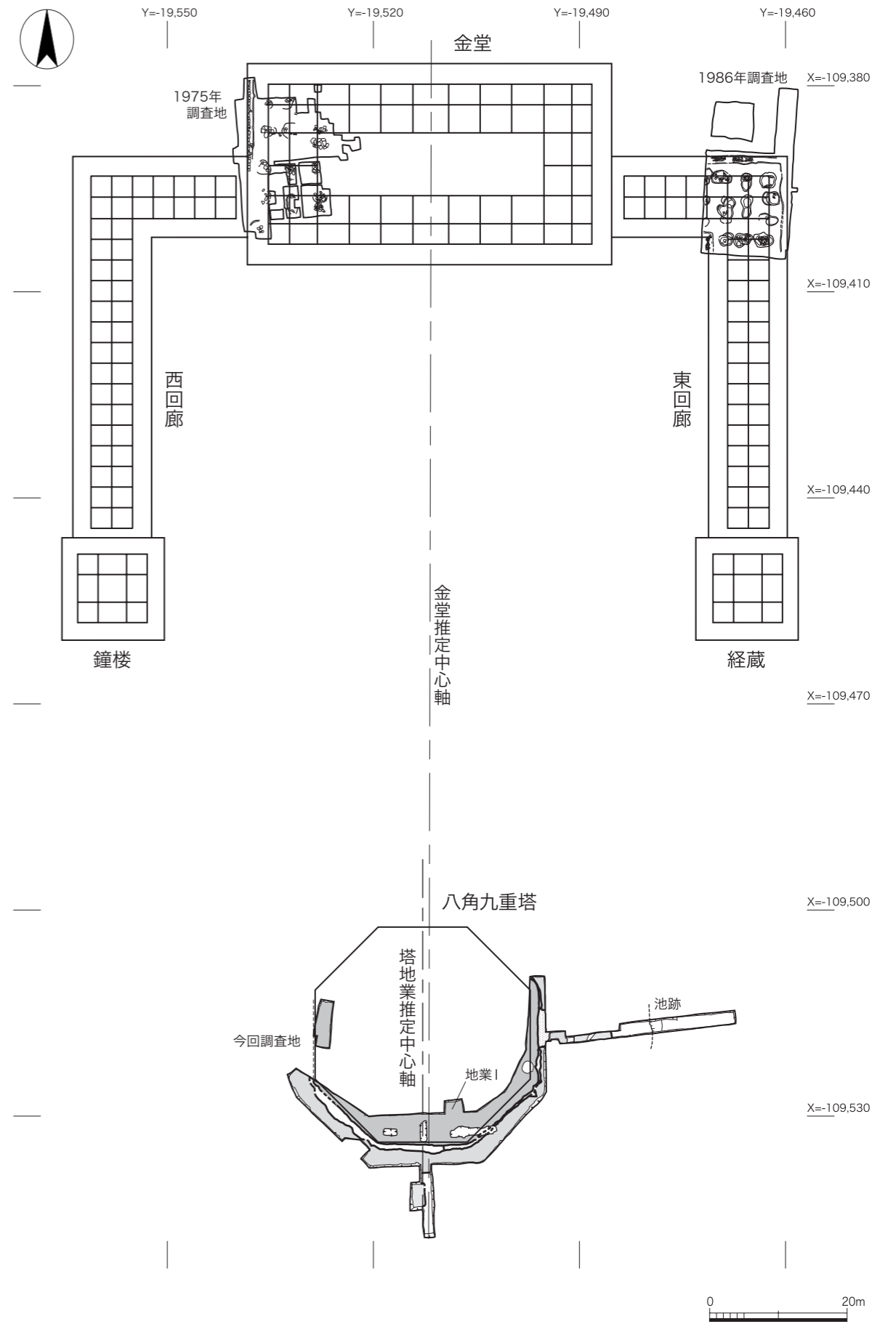


図6 金堂・塔推定復元図 (1 : 800)

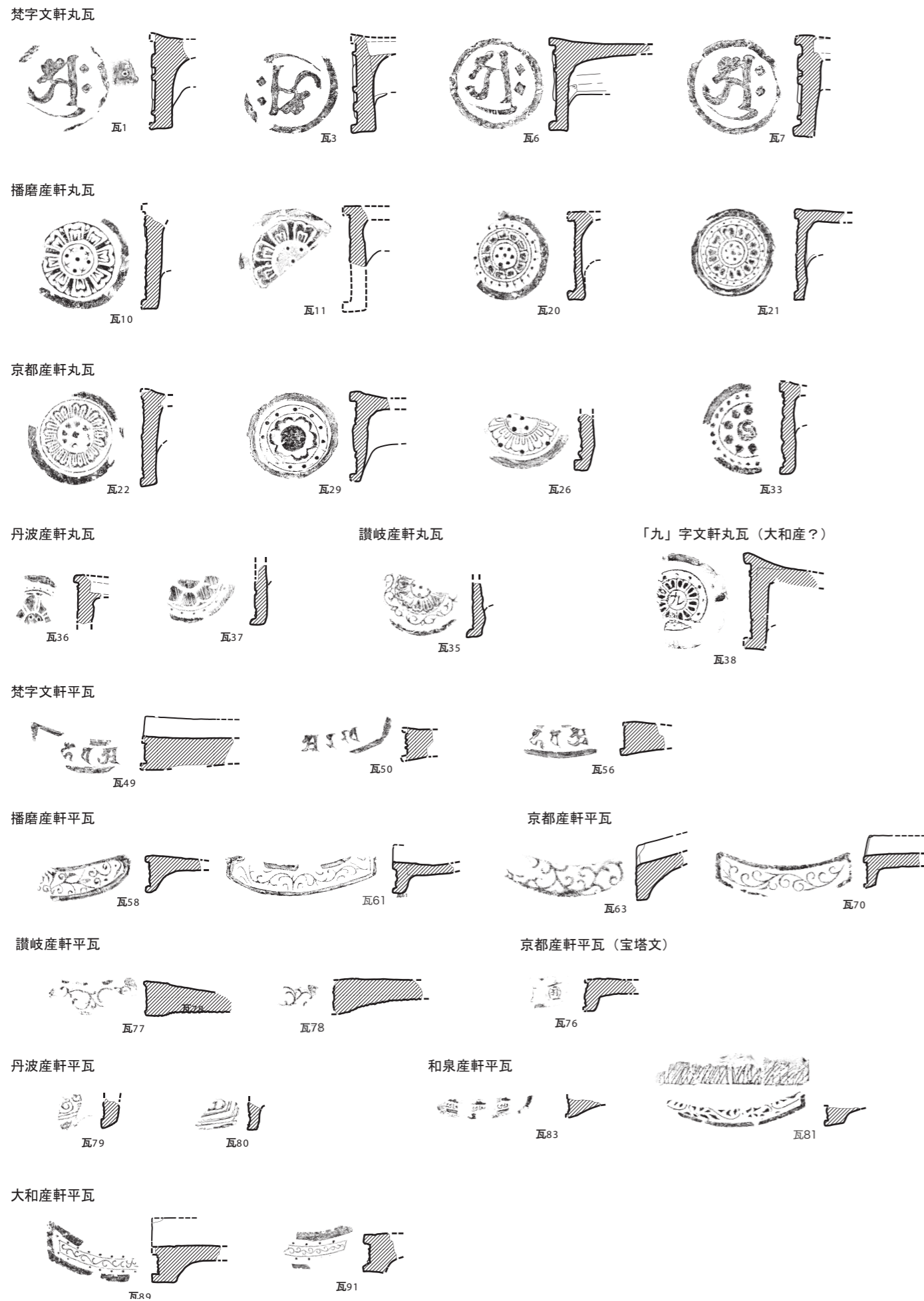


図7 出土遺物 1 (S=1/8)

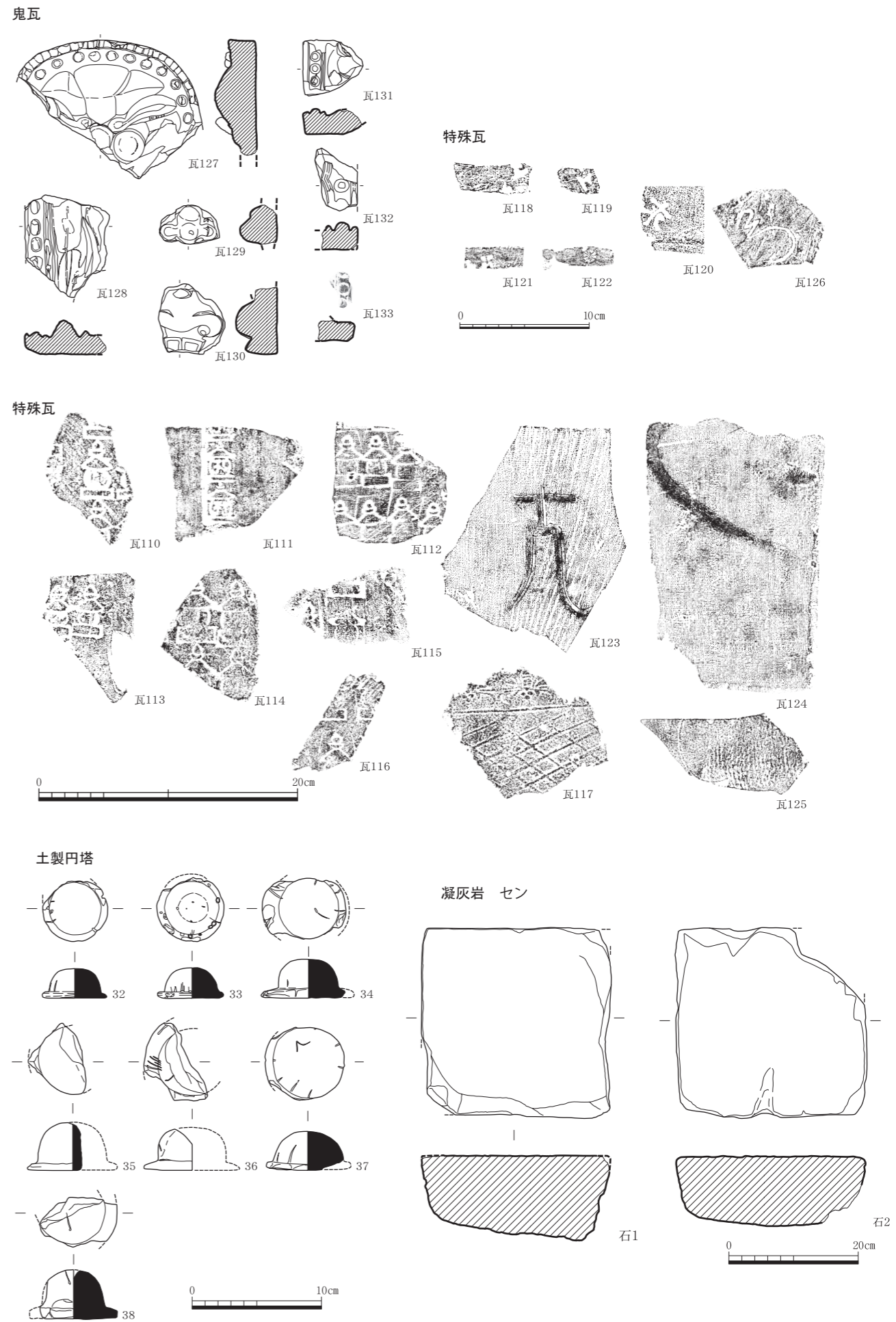


図8 出土遺物 2 (鬼瓦 S=1/8、特殊瓦 S=1/4、土塔 S=1/4、凝灰岩 S=1/8)

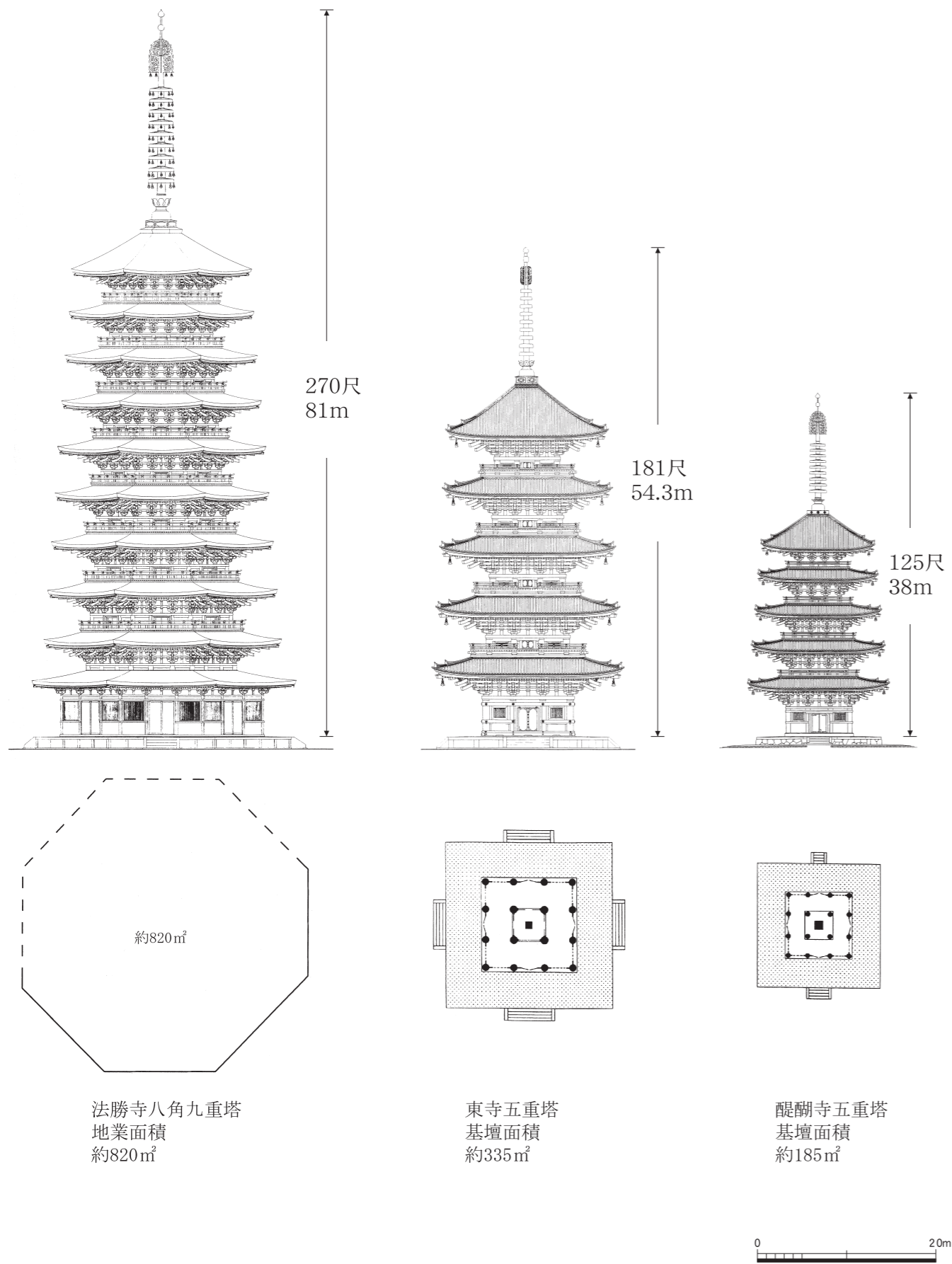


図9 塔の規模比較

日本 法勝寺
八角九重塔 高さ約80m
創建 1083年

中国 仏宮寺 (応果木塔)
八角五重塔 (内部九層)
高さ 約67m
創建 1056年 (現存)

韓国 皇龍寺
九重塔 高さ約80m
創建 646年

中国 永寧寺
九重塔 高さ約100m
創建 516年

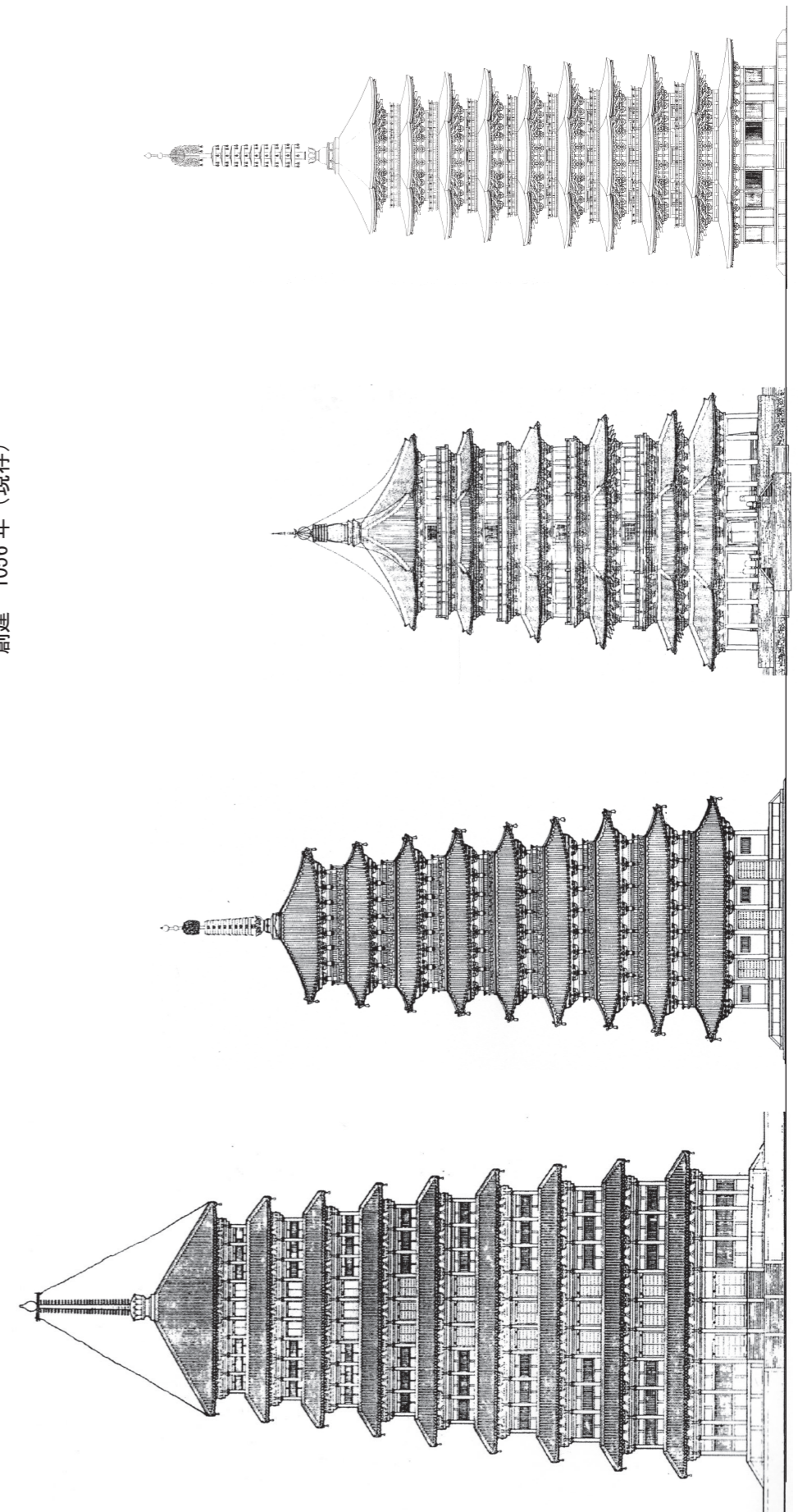


図10 東アジアの塔比較 (S=1/800)